第 2014-34 号

恵みと真理のニュース

2014 年 8 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　戻って来たどら息子を抱いて　以前よりもっと愛と恵みを与えた神様に感謝を捧げます

ハレルヤ！私を死亡の影の罪ある世から救ってくださり、乳と蜜の流れるカナン地の永遠な幸せな国で導いてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。
主はイエス様の血で私の罪が赦されイエス様の命で救ってくださいました。主の大きい恵みとその愛をどのように表現できるのか。数え切れない限りないその愛に感謝しまだ主を知らなくて滅ぶ道に行く人々が早く主の所に戻って来て、私のような恵みを受け主と共に喜び溢れる幸せな人なることを願いこれを書きます。
私の家族は神様を知らなくて熱心に偶像崇拝をしました。結婚した私も経済的に豊かで他の悩みはなく神様を知らないまま暮らしました。生活に余裕があって悩みがないのが問題でした。私達の夫婦は高慢になり旦那は世の中の快楽に落ちました。財物は加えるのは長い時間がかかりますが無くなるのは一瞬間でした。
全てのことを無くして、義姉の助けでソウルからアンヤンで引越しして地下にある家で住みました。
義姉は私達の生活に様々な助けを与えながら伝道しました。義姉が積極的だったので仕方なくその年の 8 月初めて教会の礼拝に参席しました。
御言葉と聖霊の導きでその日、神様が創造主で救い主であることと神様が生きておられる事に対して信じるようになり熱心に教会を通いました。主日礼拝、水曜礼拝、金曜祈り会、区域礼拝、区域長の祈り会、セミナーことに休まずに行き御言葉の恵みを愛し平信徒の聖書勉強会も登録して体系的に聖書を学びました。熱心に伝道もして 1993 年に区域長の職分を受けました。その中で旦那は堕落と彷徨はもっとひどくなり、ついに家出をして連絡もできなくなりました。私が家庭の家長になりました。生活費のため服の店を開き朝の市場を通い小学校 3 年生と高校 1 年生の二人の娘を一人で育でました。
“目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る／天地を造られた主のもとから。”
世の中で私一人で捨てられたような状況で日々神様を信じ委ねました。神様は真実に慈しみ深い神様でした。恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ 41：10）という御言葉の通り私を強くしてくださり時により慰めと力を与え知恵もくださいました。私は子供を育てるのことに疎かするしかない環境で切に神様を仰ぎ祈りした通りに二人の息子を守ってくださいました。私と子供達はただ神様の恵みと愛で生きました。
そのように主の恵みで生きた 1998 年外でお酒で焼けて肝硬化を患った旦那が家に帰って闘病の中で死にました。旦那の葬式が終わってから二人の息子を大学と高校に入学して忙しく過ごしたら教会を一回、二回、休むようになって世の中で付き合った人々と交際しながら私も知らずに世が楽しくなりました。そのように主の愛と恵みを忘れてあっという間に 10 年が経ちました。
今まで教会から多くの伝道士と牧師が私を捜し営業場まで訪問を来ましたが私はその方々の関心と愛を拒否しました。しかし、ある日から少しずつ時間が経つと心がとがめるようになりました。教会を離れて 10 年が経ったにも相変わらず私の教籍を管理して私のため祈ってくださり訪問してくださる教会と教役者達の愛に心が揺れました。そしてある日、教区域長が訪問に来た時私をまた呼ぶ神様の声が聞きました。“私が愛する娘、今どこで何をしているのか？”教区長が慰めと勧めの身言葉を話し祈る時でした。胸が張り裂けるなり頭に響きました。叱る声ではなく真の愛で私を呼ぶ慈しみある声でした。 続けて教区長の訪問をされて 10 年ぶりに教会に行き神様の前で膝をまずき涙を流し悔い改めました。離れていた長い間神様は私を忘れなく、変らない愛で待っていらっしゃいました。
山が移り、丘が揺らぐこともあろう。しかし、わたしの慈しみはあなたから移らず／わたしの結ぶ平和の契約が揺らぐことはないと／あなたを憐れむ主は言われる。（イザヤ　54：10）
神様の愛と今まで祈ってくださり進めてくださった同僚区域長、義姉、その間安手執事になった兄、休まずに教会のニュースを送ってくださった首区域長を愛し感謝します。何ヶ月間教会に行くと父の所に戻って来たどら息子の子ここで涙を流し悔い改めました。すると私の信仰を回復させまた、神様の恵みの中で生きるように導きてくださり恵みの中で生きるようにしてくださった主に感謝を捧げました。神様は、父のところに戻って来た私にもっと大きい祝福と喜びを与えてくださいました。二人の息子が御言葉と愛で正しく成長するように育てくださり私と娘が今日共に行くようになり、家では祈りと賛美が終わらないように恵みを与えてくださり感謝します。
世の中でどんな大きい富貴栄華と楽しみも決して、キリストイエス様の中で享受する幸せは比較できなくて、真の永遠な自由と喜びはただイエス様だけがくださることを切に体験したので今は福音を述べ伝えながら献身して神霊な楽しみの中で毎日を生きています。神様の摂理で去年事業を止めて、女性奉仕連合会で頑張って奉仕しています。私は知っています。神様が択ばれた民は絶対に捨てなくて待っていることを知っています。それで、私に伝道されて決信しましたがまた、世に戻った人々に対しても落胆しなくて神様の哀れみと愛に委ね祈りながら福音を伝える事に最善を尽くしています。
過ぎた歳月を教訓として今まで主をあまり愛しなかったことを私が主に呼ばれる日まで教会と聖徒を仕え、魂を救うため最善を尽くします。“ 命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう。(詩篇 23：6)アーメン　真の良い神様、私の主を賛美します。

［信仰コラム］　絶えず祈りなさい

″絶えず祈りなさい″(テサロニケの信徒への手紙一5:17)

人がなく、どのような対象に何をどうして手に入れても助けを求めるのがお祈りです。。。だから、″どのような対象に祈りする?″するのは″なぜ祈祷するのか?″″何を求めなければならないのか?″″どうやって手に入れなければならないのか?″という質問より優先されるべき質問です。まず、″誰に祈りを捧げなければなりませんか?″という質問に対する答えをご覧ください。
真の神が誰なんを知っている道は一つしかありません。神様が人に自信を示して見せなければなりません。これを神の啓示と呼びます。神様は預言者と使徒たちを通じて記録するようにした聖書を通じて自分の啓示しました。神様は創造主で、イエス・キリストの贖罪の恩で信ずる者に救援をあたえしながら、宇宙万物を統治して人類の歴史を主管しています。こんな神様の他には別の神が存在しません。創造主で、救援者である神様のほかに他の対象に祈ることは、無駄なことです。
次は、″私たちがなぜ祈祷しなければなりませんか?″という問いに対する答えをご覧ください。
第一に、神様と交通するためです。神様の姿や形どおり造られた人間はその何よりも神様を探して神様と交通するために努力するという面で他の生き物とは区別される特別な存在です。神様と交通する基本は神様の言葉を聞くことと神に祈りすることです。第二に、祈りする者に全能の神様が回答してくれるからです。第三に、父なる神が彼の子どもたちにくれることを喜んでれるからです。神様が私にくださることを喜んないなら、＇求め＇は、言葉を聖書にそのようにたくさんして記録する理由がありません。神様は我々の必要を満たしてくれて私たちが、これを受けて楽しむことを見て喜んでいます。第四に、祈祷の回答で神様が栄光を受けからです。お祈り回答をうければ、これを人たちに証言するようになるので、神の栄光を向けるようになります。また、神様は私たちに自分の愛と善良心と能力と誠実ことを示したから光栄を示します。
第五に、神様の助けが必要だということを認定する謙遜した姿で生き残るためです。人間は他の生き物より卓越な存在として著受けたが、神様の面倒を見たことなしには買えません。人間の力で何でも解決できるとなれば、神様の助けを求めた理由がないのです。文明と技術がいくら発展しても、人間は罪と死亡の問題を解決できません。人間は、有限な存在です。神様を依存するように造られました。神様に向かって祈祷することは、こうした事実を認める行為です。。。だから、神様は神様の助けを求めている者を無視しないです。祈る者に対して、その顔を向けながら耳を傾けながら助けの手を差し延べてくれます。
″あなたは誰に祈りしますか?″という問いに対して″私は聖書に啓示された神に祈りします。創造主であり拘束者である神に祈りします。イエス・キリストの神に祈りします。″と答えられる人は福があります。″あなたはなぜ祈祷しますか?″という問いに対して″神様と交通するためにです。祈る者に神様が回答してくれないからです。父なる神は彼の子どもたちにくれることを喜んでれるからです。お祈り応答で神様が栄光を受けからです。神様の助けが必要だということを認定する謙遜した姿で生きるためです。″と答える人は福があります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

あなたがたも用意をしていなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

すべての人が必ず持たなければならない知識の中にイエスキリストに対する知識よりもっと貴重なことはないです．この知識は人の一生だけではなく死の後の世での生にまで決定的に重大な影響を及ぼします．イエス様に対する知識はイエス様の初臨と再臨に結付されています．**ヘブル人への手紙 9 章 28 節に "キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、罪を負うためではなしに二度目に現れて、救を与えられるのである。"** しました．初めていらっしゃる理由は罪人の罪を救われるためなのです．キリストのあがないの死は "すべての人" のための事だが，実際にその恵みをこうむるようになる対象は "すべての人" ではなく "多くの人" です．二番目にいらっしゃる理由は信者たちに救いに含まれたすべてのものを完全に享受するためなのです．復活と賞と新しいエルサレムで永遠に暮すことが皆が救いに含まれたのです．真のクリスチャンは二番目に現われるキリストを切実な心で待ちこがれます．イエス様の再臨に関して記録された言葉お聞きする詳らかによく見れば再臨は二つの段階で分けられています．大患乱の前に聖徒たちを迎えるためにいらっしゃる再臨と それから 7 年後にこの世を直接審判なさるためにいらっしゃる再臨です．それではキリストが再臨なさる時あることに実際状況に関してよく見ます．

今日の本文の **マタイによる福音書，24 章 40 節と 41 節**にこんなに記録されています．**"そのとき、ふたりの者が畑にいると、ひとりは取り去られ、ひとりは取り残されるであろう。ふたりの女がうすをひいていると、ひとりは取り去られ、ひとりは残されるであろう。"**．
キリストが再臨なさる時聖徒たちを連れて行く理由は患難をまぬかれるためなのです．イエス様の再臨に関してノアの時のようでロトの時のようだと言いました．
ノアの八人の家族皆が箱舟の内に入った後に洪水の審判が臨みました．ロトの家族が皆ソドム城を出た後わずか硫黄が天から落ちる審判が臨みました．神様は救いする者を身を避けらせた後罪人たちを審判なさいました．イエスキリストがおっしゃるのを **"あなたがたが放縦や、泥酔や、世のわずらいのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していなさい その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」。"（ルカによる福音書，21:34～36）** しました．"将来起ろう事" と言うのはイエス様の再臨後に臨む大患乱を意味します．大患乱をどんなに通過するはずなのかを教えないで "充分に避けて" 神様の前に立つようにしなさいとおっしゃいました．
イエス様が再臨なさるその時に地上に住んでいる人々は空中に引き上げる人と引き上げない人，連れて行かれる人と捨てておかれる人に仕分けされるでしょう．"連れて行かれる事．"
"雲の中に引き上げる事．" という言葉はイエスキリストが再臨なさって聖徒たちが大患乱を経験しないように避ける方法を現わします．イエス様の再臨時に聖徒たちが引き上げる事は地球上のどの所にあろうが同時に経験するようになります．寝ているとか働くとか連れて行くことになります．重要な事実はイエスキリストが再臨なさる時に連れて行く聖徒，空中に引き上げる聖徒にならなければならないというのです．そうするために信仰状態が完全ではなければなりません．ここに関して本文の 42 節から 44 節までにこんなに記録されています．**"だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである。このことをわきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、目をさましていて、自分の家に押し入ることを許さないであろう。だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。"**．キリストがいつ再臨なさるかも知れないからいつも聖なる緊張感を持って備えて楽しい心で待たなければなりません．それではイエスキリストの再臨を嬉しく迎えるためにどんな態度で暮さなければならないはずなのかをよく見ます．．

第一、謹身して祈らなければなりません．

ペテロの第一の手紙，4 章 7 節に記録されるのを "万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。" しました．キリストが最後の晩餐後に弟子たちを連れてゲツセマネ園でいらっしゃいました．ゲツセマネ園に到着して弟子たちに頼むのを **「誘惑に陥らないように祈りなさい」。"（ルカによる福音書，22 :40）** しました．イエス様は弟子たちから石投げる距離に別にいらっしゃって祈りました．その後弟子たちに来て見たら寝ていました．"どんな理由で寝るのか **"誘惑に陥らないように祈りなさい．"** しました．二番目行って祈った後またいらっしゃって見たら相変らず弟子たちは寝ていました．**"誘惑に陥らないように祈りなさい．"** しました．キリストが三番目 行っては祈った後弟子たちに来て **"それから弟子たちの所に帰ってきて、言われた、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。見よ、時が迫った。人の子は罪人らの手に渡されるのだ。"（マタイによる福音書，26 :45)**でおっしゃいました．大祭司長たちがイエス様を逮捕しようと送った輩ガリオテユダの案内を受けてイエス様に近付きました．彼らがイエス様を逮捕することを見て弟子たちはすべて逃げました．患難と誘惑と試験を退けて堅固な信仰を立てるとすれば祈らなければなりません．私たちの心霊は祈ることで壮健になって胆大になります．

第二、集まるのを力をつくさなければなりません．

ヘブル人への手紙，10 章 25 節に記録されるのを "ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。" しました．礼拝と奉仕と聖徒の付き合いのための集会に熱心に参詣するようにお互いに勧めなければなりません．イスラエル子孫たちはエジプトで奴隷生活する時は自由を得るようにしてくれと言って叫びました．神様の回答で彼らが自由を得るようになって乳と蜂蜜が流れるガナアン地に入るようになりました．すると神様に感謝して熱心に神様を仕えたのではなくガナアン族属たちの山堂に通ってあらゆる偶像を仕えました．
健康と余裕が教会に集まるのを廃する原因提供になったらそれは福ではなくわざわいになります．健康と余裕は教会に集まるのを力をつくすのに使われなければなりません．

第三、再臨なさるイエス様を迎えるために自分の信仰状態をずっと点検しなければなりません．

イエス様の再臨に備えることができなかった者等の結局がどうなのかをユダヤ人の婚姻慣習を比喩にして警告なさったイエス様の比喩があります．マタイによる福音書，25 章にこんなに記録されています．**"そこで天国は、十人のおとめがそれぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出て行くのに似ている。その中の五人は思慮が浅く、五人は思慮深い者であった。思慮の浅い者たちは、あかりは持っていたが、油を用意していなかった。しかし、思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた。花婿の来るのがおくれたので、彼らはみな居眠りをして、寝てしまった。夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と呼ぶ声がした。そのとき、おとめたちはみな起きて、それぞれあかりを整えた。ところが、思慮の浅い女たちが、思慮深い女たちに言った、『あなたがたの油をわたしたちにわけてください。わたしたちのあかりが消えかかっていますから』。すると、思慮深い女たちは答えて言った、『わたしたちとあなたがたとに足りるだけは、多分ないでしょう。店に行って、あなたがたの分をお買いになる方がよいでしょう』。 彼らが買いに出ているうちに、花婿が着いた。そこで、用意のできていた女たちは、花婿と一緒に婚宴のへやにはいり、そして戸がしめられた。 そのあとで、ほかのおとめたちもきて、『ご主人様、ご主人様、どうぞ、あけてください』と言った。しかし彼は答えて、『はっきり言うが、わたしはあなたがたを知らない』と言った。"（マタイによる福音書，25 : 1～12）．**
イエス様は花婿を迎えに出かけた 十人のおとめ比喩でイエスキリストの再臨を予備する適当な態度を教えてくれました．この言葉はイエス様当時にユタヤ社会の婚姻慣習が分かれば理解しやすくなります．ユタヤ社会での結婚宴はすごいな慶事で一週間の間進行されました．花婿は彼の友達を同行と花嫁の家に行きます．花嫁の友達が花婿を迎えるために遠く出て待ちます．この比喩で花婿はイエスキリストを意味して十人のおとめは教人たちを意味します．あかりは表で現われたように見える外形的な信仰生活を意味して油は確固不動したあがないの信仰を意味します．私たちはいつよりも神様の再臨にもっと近くの時点に住んでいます．聖書に予言されたイエスキリストの再臨の徴兆たちがほとんど成り立ちました．これからはイエス様いらっしゃる事だけ残っているとしても過言ではない時代に私たちが住んでいます．イエスキリストの再臨に対してどんなに理解しているしどんなに予備しているか調べればその人の霊的な状態を診断することができます．

声を出して読んで見ましょう．"イエスキリストの再臨に対して聖書に記録されたそのまま私は信じます．" "私はイエスキリストの再臨が今日あるかも知れないという期待感を持って生きて行きます．" "私はキリストがいつ再臨なさってもいつも嬉しく迎えるように専ら霊的に目覚めた状態に生きて行きます．" 皆さん皆が本気でこんな告白をする聖徒になるように願いします．